「松之山かるた」の名所を守ろう

大松山（たいしょうざん）の“眺望”復活

復活した山頂からの眺望（松之山方面を望む）

松之山自治振興会による「松之山ふる里かるた」に登場する景観保全活動の3回目が11月17日(日)、大松山（たいしょうざん、674m）の山頂付近で行われた。

かるたの読み札には「永遠に町を見守る大松山」と詠まれ、地元松之山小学校の校歌に歌われ、遠足やハイキングの地として広く親しまれてきた。山頂は特に北東方面に開ける眺望の絶景地で、撮影スポットとして人気を集めるほか、ワシタカの秋の渡り観察地として、野鳥ファンにも人気の地だったが、周囲の雑木の生長に手入れが追い付かないのが現状だった。

鋸やチェーンソーを使って伐採作業

作業には、ボランティア6人が参加して、鋸やチェーンソー、刈り払い機を使って、東側斜面の雑木伐採作業を中心に約1時間かけて実施、自慢の眺めを取り戻した。

作業を担当した自治振興会「まちづくり部会」の本山敏雄部会長は「今回の作業で東側斜面の眺望を復活させることができた。他にも祠や石碑の周り、山頂周囲は同じように雑木が伸びている。今後も手を加えて地域の人たちに親しまれるよう保全活動を続け、景勝地大松山をアピールして行きたい」と話していた。

市道湯本兎口線の湯峠から西側に入り、山頂近くの駐車場まで車で行ける。

山頂までの道路は3年かけて、地元で直払い制度の加算金を活用して整備したほか、山頂にベンチも設置した。

同部会では、8月にまつのやま学園前の「坂口安吾文学碑」周辺、三省地区の「夜泣き松」周辺で保全活動を実施。今後もボランティアを募って続けていく計画。